

シンポジウム

“いのち”を守る体育  
～今の体育で生涯にわたって人のいのちを守り・育めるのだろうか～

司会 伊藤美智子

趣旨説明

「“いのち”を守る体育 ～今の体育で生涯にわたって人のいのちを守り・育めるのだろうか～」というテーマについて説明する。2年前の3月11日に発生した東日本大震災は、わが国に甚大な被害を起こした。この震災を目の当たりにして、我々体育に関わる者は、生涯にわたって幸せに生きるということ考えた教育として、今後子どもたちにどのようなことができるのかという、非常に重いテーマを突きつけられたような思いがした。防災教育ということではなく、我々体育人が、今の体育で本当に子どもたちを育めるのか。あるいは生涯にわたって、体育を学んでよかったと思えるような教育ができていくのか。そのためにはどのようなことをする必要があるのであるのか。そういうことを一緒に考えたいということで、このテーマを考え、本日の3人の先生にお願いした。

高塚先生は順天堂大学体育学部を卒業後、鳥取県立高校で長く勤められ、平成17年4月より鳥取大学医学部にてヒューマン・コミュニケーションの授業を担当されている。コミュニケーション能力という人と関わることを中心にお話しいただく。

遠藤先生は日本体育大学大学院を修了後、2001年にNPO法人パディ冒険団を設立し、理事長に就任された。野外体験を通した子どもたちの教育に尽力されている。

草島先生は筑波大学大学院体育研究科を修了後、堺市立鳳中学校の保健体育教員として勤務し、現在は生徒指導主事をされている。